

2021年度 第1四半期決算説明会 主な質疑応答

日時:2021年7月29日(木)15:30~16:18

決算説明に加えて、パワー半導体の1Q受注状況と需要見通しおよび設備投資計画について以下の通り説明後、質疑を行いました。

<パワー半導体 補足説明>

パワー半導体の1Q受注状況と需要見通し

- ・産業向け1Q受注は、FA関連向けの需要増を主因に対前年35%増、対前Qでは8%減となるものの為替・先行発注等の特殊要因を除くと9%増。
- ・電装向け1Q受注は、電動車向けの需要増を主因に対前年72%増、対前Qでは3%増となり、為替・先行発注等の特殊要因を除くと8%増。
- ・2Q以降も需要は堅調に推移し、売上は対前年2桁%増を継続する見通し。

パワー半導体の設備投資計画

- ・脱炭素への加速を受け、当社が対象としている半導体市場規模が当初計画を上回り拡大している。
- ・旺盛な需要増加を背景に、設備投資も前倒しで進めてきている。今後も生産能力増強が求められるなか、ディスク媒体事業はお客様の方針転換により需要がなくなることが確定した。この度、ディスク媒体事業を整理・撤退し、マレーシア工場のディスク媒体クリーンルームを半導体へ転用し、生産能力増強を図ることを決めた。
- ・ディスク媒体事業の整理・撤退影響については、上期決算時に説明する。

<主な質疑応答>

全体

Q:1Q業績の社内計画比は。

A:

- ・売上高は、発電プラントおよびパワエレシステム インダストリーのITソリューションの案件延伸等により若干下振れした。営業利益は、半導体を中心に全セグメントで上振れした。金額規模は、半導体は2桁億増、その他のセグメントは1桁億増となった。

Q:上期・年間の業績予想を変更していないが、半導体を中心に上振れ余地はないか。

A:

- ・上期売上高は、パワエレシステム インダストリーのITソリューションの案件延伸影響に加え、ディスク媒体事業撤退影響により、業績予想に対し減少すると見ている。上期営業損益は、半導体およびパワエレシステムのFA関連、器具を中心に上振れし、業績予想に対しプラスになるだろう。
- ・年間業績も、業績予想に対して上振れが期待できるが、プラス・マイナス要因を2Qで見極め、上期決算時に業績予想を修正したい。

Q:資材価格の高騰影響は、既に発生しているか。

A:

- ・資材価格の高騰は一部で発生しているが、調達先との長期契約で部材確保等に取り組んでおり、現時点では業績に与える影響は小さい。

Q: 2Q以降のリスク要因として資材価格の高騰影響とプラント案件の延伸を挙げているが、対策と規模感は。

A:

- ・半導体や器具を中心に資材価格の高騰影響を受ける。コストダウン等により業績影響の極小化に取り組むとともに、一部の製品は販売価格へ転嫁していく。
- ・プラントの延伸について、発電プラントにおいて、新型コロナウイルス影響による案件延伸リスクがある。規模感は案件により異なるため、回答を控える。

半導体

Q: ディスク媒体のシェアと売上規模は。

A:

- ・ハードディスクドライブ (HDD) メーカーもディスク媒体を内製しており、市場における当社シェアは1桁%台。
- ディスク媒体事業の昨年度の売上高は約190億円。

Q: ディスク媒体の事業撤退について顧客の方針転換の具体的内容は。

A:

- ・当社からのコメントは差し控える。

Q: ディスク媒体の生産が終了するのはいつか。

A:

- ・7月で生産を終了し、受注残分を納入していく。

Q: ディスク媒体事業の撤退に伴う業績影響、パワー半導体への転用計画に関する詳細は。

A:

- ・ディスク媒体事業撤退に伴う影響の詳細は、上期決算発表時に説明する。半導体の2021年度計画は、ディスク媒体の売上・営業利益の減少分を好調に推移しているパワー半導体で挽回していく。
- ・マレーシア工場のディスク媒体クリーンルームのパワー半導体への転用については、前工程・後工程の両方で活用していく。

Q: パワー半導体の1Qの受注状況、2Q以降の見通しは。

A:

- ・1Qは先行受注もあり、非常に強い。お客様の要求に対し、供給が追い付いていない状況。
- ・2Q、3Qも対前年で受注増を見込むが、1Qほどではないだろう。

Q: 2021年度、2022年度のパワー半導体増産投資対象の工場は。

A:

- ・2021年度の前工程の増産対象は主に津軽。津軽は下期から量産を開始。2022年度も津軽を中心に増産していく。2023年度以降はマレーシアを含めて増産する計画。

Q: SiC、12インチウェハの設備投資の考え方は。

A:

- ・現在、両方の技術的な準備を進めているが、想定以上に早くSiCが立ち上がるのではないかと見ている。SiCの増産タイミングが早まると見ている。

Q:SiCの立ち上がりが早い向け先は。増産投資をする場合は6インチか。

A:

- ・向け先は自動車で、従来想定の2025年より半年から1年程度前倒しになる見通し。
- ・仮にSiCを増産する場合は、6インチとなる。

食品流通

Q:自販機は顧客の設備投資計画の延伸により売上が減少しているが、年間売上計画に与える影響は。

A:

- ・国内は、足元の状況を踏まえると2Q売上は1Qよりも増加が見込まれ、海外はアジアを中心に受注が好調だ。年間は計画通りとなる見通しだ。

以 上